

雪囲いすでに終へたる山峡の一軒宿に友と和みぬ (R)

もうすぐお正月・・・

太陽の高度が低くなり、図書室から見ると葉山への日の入りがだいぶ南になりました。雪月、春待月、師走とも云われる十二月です。

大掃除や年賀状書き、松飾りの準備、お餅つき、おせちの準備と暮は大忙しです。お正月は古くから日本人にとってとても大切な行事でした。元旦は歳があらたまると言うだけでなく、お正月の神様(ご先祖様とも)をお迎えして太陽も月も大地も火も水も全てのものが新しく生まれかわり、そして始まる日なのです。

大晦日、子どもの頃はいつまでも起きていてもいい日だったので嬉しいものでした。昔は大晦日の夜は年神様を迎えるために寝ずに過ごすのが慣わしでした。この日は買い物やお正月のお料理をします。神々の掛け軸に鱈を供え(来年も俵がたくさん取れますようにと)、年越しのお蕎麦を食べて洗い物したら、お米を研いで、最後のトイレ掃除をし、お風呂に入り身を清め、元日にはできない洗濯をし、ほっとしていると間もなく除夜の鐘が鳴り始めます。お賽銭とロウソクを持って近所の神社へ。薄暗く、行きかう人の顔はよく分かりませんが、「明けましておめでとうございます。」と挨拶を交わしながらお参りします。柏手かしわでや太鼓の音が賑やかに響き、新年が始まります。

・・・

乃東生ず(なつかれくさしょうず)

12月21日~25日頃

次年子では道と家との間に南瓜を植えていた。それは皮が堅く鉈で割る。名を「さらかけ南瓜」と呼ぶ。冬の飯のおかずは南瓜と蕪漬けのみである。南瓜の天麩羅は子供の頃の最高のご馳走だった。粉末の南瓜に熱湯をそそぐ「かぼちゃかえもち」もあったと聞いている。(海藤忠男)

麩角解つる(しかのつのおつる)

12月26日~12月30日頃

国民の81%の人が出しているという年賀はがき。今年も15日から受け付けが始まった。あの人この人、思い出しながら書いている。行く年を振り返って「ああ、もう一年が終わるのか」と、今年を名残惜しく感じることを年惜しむとか。年の瀬は多忙であるが来る年も安らかな年であることを願っている。(M)

雪下麦を出だす(せっかむぎをいだす)

12月31日~1月4日頃

幼い頃から初夢に家族分、母が舟を折り、上下どちらから読んでも同じ“なかきよのおのねふりのみなめさめなみのりふねのおとのよきかな”裏に各自の名前を書き、枕の下に入れてくれた。いい夢を見て素晴らしい年であるよう祈りを込めて。今、私も家族の為に毎年舟を折っている。(U)



2015.1.11 愛宕神社

読書会だより⑩

大石田の冬至のころ

七十二候より

大石田町立図書館

冬至かぼちゃを食べると「風邪をひかない」「中風にならない」とか。「三軒分食べるとふくすぐなる(お金持ちになる)」とは、始末の心を忘れない風習でしょうか。それとも、お日さま色の南瓜を友と食べてお喋りし心も温かく、寒い冬を乗り越えることかもしれませぬね。